

目 次

I. 和歌山大学岸和田サテライトについて	1
1. 岸和田サテライトの紹介	1
2. 2つの受講制度	2
II. 大学院科目等履修生の募集	4
1. 出願および履修願の手続き	4
㊦履修願	6
III. 学部開放授業受講者の募集	7
1. 聴講申請の手続き	7
IV. 令和4年度後期 岸和田サテライト開講授業	9
1. 大学院授業科目	9～12
2. 学部授業科目	13～14

I. 和歌山大学岸和田サテライトについて

1. 岸和田サテライトの紹介

和歌山大学岸和田サテライトは、岸和田市をはじめとした大阪府泉州地域における住民主体の地域づくりと次代を担う人材育成に取り組んでいます。

和歌山大学は、大阪府岸和田市との地域連携推進協定にもとづき、平成18年4月、岸和田市立浪切ホール(現南海浪切ホール)に岸和田サテライトを開設しました。本学が有する高等教育機能を活用して、社会人のスキルアップや地域発展のニーズに即した大学院科目・学部科目を開講しているほか、専門性豊かな生涯学習の拠点として、一般市民を対象にした無料公開講座「わだい浪切サロン」や講演会も実施しています。

【学部開放授業】 フィールドワークや実習を取り入れた科目を開講



フィールドワークの様子



授業の様子

【大学院経済学研究科授業】 現代社会・地域課題に沿ったテーマを開講



大学院授業の様子①



大学院授業の様子②

【わだい浪切サロン】



無料公開講座

【講演会】



「岸和田サテライト友の会」講演会

2. 2つの受講制度

和歌山大学には、社会人等を対象とする「大学院科目等履修制度」と「学部開放授業受講制度」があります。

令和4年度後期に岸和田サテライトで受講できる制度の概要は以下のとおりです。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、遠隔授業(オンライン授業)で開講する場合があります。
それに伴うパソコン・WEBカメラ・マイクの他、インターネット環境等は各自でご準備ください。

	大学院科目等履修制度	学部開放授業受講制度
区 分	大学院科目等履修生	学部開放授業受講者
資 格	大学を卒業した者または学校教育法施行規則第155条の規定により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者	18歳以上（高校生は除く）
選 考	願書および履歴書等による選考	なし（年齢確認のみ）
成績評価	あり	なし
単位認定	あり (成績評価において合格した科目ごとに所定の単位が与えられます。)	なし
費 用	検定料 5,000円 入学料 10,000円 授業料 14,400円（1単位につき） ※令和4年度より「履修できる期間」の制度廃止に伴い、履修期間（1学期）毎に検定料と入学料及び受講料を徴収します。ただし経過措置として、令和3年12月31日時点において、履修できる期間の残期間がある科目等履修生については、有効期限まで今までどおりとします。（有効期限が2022年10月1日以降の科目等履修生は、検定料・入学料は不要です。）	聴講料 11,000円（1科目） ※現在、登録期間中の方は10,000円（1科目） ※2022(令和4)年度より登録料は廃止されました。それに伴い初回聴講からの4年間を「登録期間」として以降の登録料を免除する制度は廃止になり、聴講料は11,000円（1科目）となりました。 <u>ただし登録期間の残期間がある学部開放受講生については、有効期限までは今までどおりとし、聴講料は10,000円（1科目）となります。</u>
経済学研究科修士課程への進学	【詳しくは、経済学研究科修士課程学生募集要項をご覧ください。】 科目等履修生として修得した単位は、入学後に修得した単位として18単位まで認められる場合があります。	/
そ の 他	サテライトの授業は、土曜日および平日夜間を中心に行います。 栄谷キャンパスおよび南紀熊野サテライトにも、科目等履修生として履修できる経済学研究科修士課程の授業科目があります。	/

●大学院科目等履修制度とは

【概要】

- 大学院(経済学研究科)の授業を土曜日および平日夜間を中心に、原則南海浪切ホールで開講します。
- 入学資格は、大学を卒業した者または学校教育法施行規則第155条の規定により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者で、書類審査等による選考があります。
- 科目等履修生として、大学院授業受講後に合格判定を受ければ、所定の単位を修得できます。
- 栄谷キャンパスおよび南紀熊野サテライトで開講される大学院授業についても、科目等履修生として受講できます。
(詳しくは、学務課学部支援室経済学部係までお問い合わせください)
- 1学期毎に履修申請が必要です。

〈問い合わせ先〉

窓 口	住 所	電話番号・電子メール
和歌山大学 学務課学部支援室 経済学部係	〒640-8510 和歌山市栄谷930	073-457-7805 ecogakumu@ml.wakayama-u.ac.jp

【修士課程(経済学研究科)への進学】 ※詳しくは、経済学研究科修士課程学生募集要項をご覧ください。

○既修得単位認定制度

本学大学院修士課程(経済学研究科)に入学した場合、本研究科開講の科目等履修生として修得した単位は、18単位を上限として認められることがあります。

●学部開放授業受講制度とは

【概要】

- 学部開放授業(連携展開科目)を原則土曜日に南海浪切ホールで開講します。18歳以上(高校生は除く)であれば聴講申請できます。試験等による成績評価や単位認定もないため、関心のある授業を気軽に受講できます。
- 令和4年度より申請制度が変更されました。(登録料制度の廃止)

【受講可能期間】

- 2022(令和4)年度より登録料は廃止されました。それに伴い初回聴講からの4年間で「登録期間」として以降の登録料を免除する制度は廃止になり、聴講料は11,000円(1科目)となりました。
ただし登録期間の残期間がある学部開放受講生については、有効期限までは今までどおりとし、聴講料は10,000円(1科目)となります。

II. 大学院科目等履修生の募集

1. 出願および履修願の手続き

●募集科目

科目名、授業内容、開講日時等については、9～12ページをご参照ください。

※この募集要項に掲載のシラバスは後日変更となる可能性があります。正式なシラバスは和歌山大学のホームページから確認してください。また、他の開講科目の開講日と重複する場合がありますのでご注意ください。

※令和4年度後期の授業は対面授業を予定しておりますが、大阪府下において、府(県)域を超える移動の自粛が要請されている場合、教員の出講を取りやめ、遠隔(オンライン)授業での対応とします。

また、教員が新型コロナウイルス感染症に罹患または濃厚接触者となり、自宅待機等の措置が必要となった場合については、当該授業日程を延期、もしくは当該日の授業を休講として補講とします。

(オンライン授業に切り替わった際に必要な受信端末やネット環境等は各自で準備してください。)

※経済学研究科は改組に伴いプログラム制となっています。進学希望の方は、出願前に修了要件等について問い合わせ先までご照会ください。(P.5 ●出願先・問い合わせ先をご覧ください。)

※各授業では、授業内容を録画することがあります。

●募集人数

各科目とも、若干名

●出願期間

令和4年8月22日(月)～8月26日(金)(必着)

●出願方法

【新規に出願される方】

学務課学部支援室経済学部係に「令和4年度和歌山大学大学院科目等履修生出願要項」をご請求のうえ、出願してください。

○入学資格

大学を卒業した者または学校教育法施行規則第155条の規定により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。

詳しくは、学務課学部支援室経済学部係までお問い合わせください。(P.5 ●出願先・問い合わせ先をご覧ください。)

【現在、科目等履修生の方】

A. 履修可能期間中の方

○出願書類

「履修願」(用紙㊦)

「科目等履修生履修可能期限証(カード)」のコピーを所定の位置に貼付してください。

返信用封筒(結果通知用)

角形2号封筒に簡易書留料金の切手(~100gまで)を貼付し、住所・宛名を記載してください。

B. 有効期限が2022年9月30日の方

有効期限が2022年9月30日の方は、新規出願者の扱いとなります。

出願書類等を学務課学部支援室経済学部係宛に郵送してください。その際、封筒の表に「岸和田サテライト大学院科目等履修生出願書類在中」と朱書きし、「特定記録」郵便で送付してください。

●選考および結果通知

提出された願書および履歴書等で審査を行います。選考結果は、返信用封筒にて郵送します。合格者には入学手続書類を同封します。

●入学手続期間・手続方法

令和4年9月15日(木)～9月16日(金)(必着)

手続書類を学務課学部支援室経済学部係まで郵送(期限必着)または持参(9:00～17:00 ただし12:00～13:00を除く)してください。詳細は入学手続書類に記載します。

●入学金・授業料

入学金 10,000円

授業料 14,400円(1単位につき)

詳細については、入学手続書類に記載します。

※所定の期日までに納付されなかった場合は除籍となります。(入学手続後のキャンセルについては、入学手続書類を確認してください)

※履修可能期間中の方の費用については、P.2「2つの受講制度」をご覧ください。

●その他

- ・出願後、授業科目の開講日時・場所・担当教員等に変更等が生じる場合がありますので留意してください。なお、これらの変更により受講が困難になった場合は、問い合わせ先までご相談ください。
- ・科目等履修生は通学定期の購入及び学割の利用はできません。
- ・障害を有する志願者で履修上特別な配慮を必要とする場合は、出願前に問い合わせ先までご相談ください。

●出願先・問い合わせ先

窓 口	住 所	電話番号・電子メール
和歌山大学 学務課学部支援室 経済学部係	〒640-8510 和歌山市栄谷930	073-457-7805 ecogakumu@ml.wakayama-u.ac.jp

履 修 願

和歌山大学長 殿

学生番号 _____

氏 名 (署名) _____

E-mail. _____

下記の科目を履修したいので、許可くださるようお願いいたします。

記

履修希望科目

希望科目	科 目 名	単位数
<input type="checkbox"/>	憲法	1
<input type="checkbox"/>	国際経済学	1
<input type="checkbox"/>	交通政策	1
<input type="checkbox"/>	通商政策	1

(□：該当するものに「✓」を記入してください。)

※有効期限が2022年9月30日以前の方は、学務課学部支援室経済学部係までお問い合わせください。

有効期限 (西暦) 20 年 月 日

(科目等履修生履修可能期限証(カード)を参照ください。)

「科目等履修生履修可能期限証(カード)」
のコピー貼付欄

III. 学部開放授業受講者の募集

1. 聴講申請の手続き

●聴講資格

18歳以上(高校生は除く)であれば、どなたでも可能です。(受講申請に際しての審査や単位認定はありません。)

●募集科目および募集人数

「ポストコロナ社会の心身と暮らしを考える」(15名程度)：授業内容は13ページをご覧ください。

「災害の文化と地域の祭礼」(15名程度)：授業内容は14ページをご覧ください。

※この募集要項に掲載のシラバスは後日変更となる可能性があります。正式なシラバスは和歌山大学のホームページから確認してください。また、他の開講科目の開講日と重複する場合がありますのでご注意ください。

※令和4年度後期の授業は対面授業を予定しておりますが、大阪府下において、府(県)域を超える移動の自粛が要請されている場合、教員の出講を取りやめ、遠隔(オンライン)授業での対応とします。

また、教員が新型コロナウイルス感染症に罹患または濃厚接触者となり、自宅待機等の措置が必要となった場合については、当該授業日程を延期、もしくは当該日の授業を休講として補講とします。

(オンライン授業に切り替わった際に必要な受信端末やネット環境等は各自で準備してください。)

※各授業では、授業内容を録画することがあります。

●聴講申請方法

1. 申請の仮登録

岸和田サテライトHPの下記のフォームより仮登録を行ってください。

仮登録フォームURL：<https://sites.google.com/view/wadaikishiwada/>

登録期間：令和4年8月9日(火) 10:00～9月6日(火) 17:00まで

※先着順となるため、募集人数を超えた場合は受講できませんのでご注意ください。

QRコードを
お使いください



2. 聴講料の納入

受講が可能になった方から、岸和田サテライトより申請書と振込方法(振込依頼書またはATM・ネットバンキングによる方法)を記載した書類をメールにて送付しますので聴講料をお振込みください。なお、振込後の返金はいたしかねます。

3. 申請書類の提出

金融機関などで振込依頼書またはATM・ネットバンキングにより振込後、振込金受付証明書を貼付(ATM・ネットバンキングによる振込の場合は振込金額が分かる書面コピーを添付)のうえ学部開放授業聴講申請書を和歌山大学岸和田サテライト宛に郵送してください。その際、封筒の表に「学部開放授業書類在中」と朱書きして「特定記録」郵便で送付してください。

提出期間：令和4年8月17日(水)～9月14日(水)(必着)

※持参による申請書提出は、9月14日(水)に限り受け付けますが、事前に岸和田サテライトまでご連絡ください。

※9月14日(水)までに聴講料の納入と、申請書類の提出のいずれかを欠く場合には受講できませんのでご注意ください。特に郵送する場合は、郵送期間を考慮に入れて期限までに必着するようにお願いします。

4. 参考

※2022(令和4)年度より登録料は廃止されました。それに伴い初回聴講からの4年間を「登録期間」として以降の登録料を免除する制度は廃止になり、聴講料は11,000円(1科目)となりました。
ただし登録期間の残期間がある学部開放受講生については、有効期限までは今までどおりとし、聴講料は10,000円(1科目)となります。

聴講料とは授業料にかかわるもので

【登録期間中聴講学生】：1科目※【10,000円】です。

→令和4年10月以降の登録者証(カード)の有効期限が残っている方

【新規申請者】：上記以外の方は、1科目※【11,000円】です。

※改定があった場合は、改定後の金額とします。

●受講通知

申請期間の終了後、授業の案内を送付します。

●フィールドワークについて

交通費など諸費用については、各自のご負担となります。

またフィールドワークに伴う保険料をご負担いただく場合があります。

●その他

障害を有する聴講申請者で履修上特別な配慮を必要とする場合は、申請前に問い合わせ先までご相談ください。

●問い合わせ先

仮登録後、7日以上過ぎても岸和田サテライトから電子メールが届かない場合は、下記の窓口までお問い合わせください。

窓 口	住 所	電話番号・電子メール
和歌山大学 岸和田サテライト	〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 南海浪切ホール2 F	072-433-0875 (faxも同じです) kishiwadastaff@ml.wakayama-u.ac.jp

※開室時間 9:00~17:00 (日曜・月曜・祝日は休み)

IV. 令和4年度後期 岸和田サテライト開講授業

1. 大学院授業科目

授業科目名 (英語表記)	憲法 (Constitutional Law)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	森口 佳樹		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 11月5日(土) 9:00~12:00	第3回 11月26日(土) 9:00~12:00	
	第2回 11月19日(土) 9:00~12:00	第4回 12月17日(土) 9:00~12:00	
<p>【授業の概要・ねらい】 近時の最高裁判決には注目すべき判決が多い。かつてに比較して違憲判断例も増加し、これまでの判断基準と異なった判断手法を採用する例も多くなっている。本講義においては、人権規定に関する判例検討にやや重きを置きながら、これまでの判例の傾向とその変化、それに関する学説の評価について順次検討する。具体的には、国家公務員の政治的行為に関する判例、平等権と家族法に関する判例及び政教分離原則をめぐる判例等を取り上げることとする。</p> <p>【授業計画】 当面の具体的計画(提案) 学説のまとめと判例の紹介の二本立て</p> <ol style="list-style-type: none"> 公務員の政治的行為への制限 特別権力関係論 猿払事件、堀越・宇治橋事件 公法上のプライバシーの権利の充実 新しい人権の具体的展開 京都府学連事件、住基ネット事件、GPS捜査違憲事件等 平等権違反の判断基準の検討 尊属殺事件、非嫡出子相続差別事件、再婚禁止期間違憲事件 「君が代」関係事件 思想・良心の保障との関係 平成19年以來の諸判例とその深化 表現の自由の保障 明確性の理論との関係 徳島市公安条例事件と広島市暴走族条例事件 政教分離原則 信教の自由との関係 津市地鎮祭事件、愛媛県玉串料事件、空知太神社事件、那覇市孔子廟事件 経済的自由権への制限の判断基準 小売市場・薬事法事件から森林法・証券取引法事件へ 参政権 議員定数に関する問題 制度の変遷、判例における数的基準の定式化とその変化 生存権 法的請求権の有無・その性質 朝日・堀木訴訟から学生障害者無年金、制度後退禁止請求訴訟へ 立法的不作為の責任追及 在宅投票制度廃止事件と在外邦人選挙権訴訟 租税法律主義をめぐる議論 通達課税事件と旭川市国民健康保険条例事件 <p>講義は全体で4回である。第1回開始前に担当者の決定をする。受講者数により授業計画を変更することもあるので留意してほしい。</p> <p>【到達目標】 日本国憲法をめぐる諸問題の理解を深化させる。具体的には、最近の諸問題について学部生に理解できるだけの説明能力を身につけてもらいたい。</p> <p>【成績評価の方法・基準】 報告内容と討論への積極的参加、適宜のレポート等の内容により評価する。論述試験等は実施しない。</p> <p>【教科書】 あらかじめの指定はしない。</p> <p>【参考書・参考文献】 講義中に適宜紹介するが、開講前に最低1冊の最近の憲法概説書を通読しておくこと。判例集としては、ジュリスト別冊「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第7版)」(有斐閣)をあげておく。</p> <p>【履修する上で必要な事項】 特になし。</p> <p>【授業時間外学修についての指示】 準備学習と復習に相当な時間、さらに授業内容に関連する課題に関する調査・考察に相当な時間、自主的に学習することが必要である。図書館における参考書やデータベースを活用し、学説・判例の理解を深めることが重要である。</p> <p>【授業理解を深める方法】 テーマに関係する論文や判例評釈等を参照することが有益である。</p>			

授業科目名 (英語表記)	国際経済学 (International Economics)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	岡部 美砂		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 10月8日(土) 13:00~17:00	第3回 10月22日(土) 13:00~17:00	
	第2回 10月15日(土) 13:00~17:00		

【授業の概要・ねらい】

ミクロ経済学をベースとする国際貿易モデルを厳密に理解することに重点を置きます。特に、一般均衡理論をベースとして、リカード・モデルとヘクシャー・オリーンモデルの仕組みとそこから導出される定理を理解します。また、これらのモデルを応用している論文や現実への応用可能性について検討します。

後半には、規模の経済性と財のバラエティを取り入れた新貿易理論、および企業の異質性を考慮した新々貿易理論のフレームワークなどの最新の貿易モデル、および実証研究の進展について学びます。

【授業計画】

- Lecture 1 イントロダクション：国際貿易理論の基礎知識
- Lecture 2 一般均衡モデル：基本的なフレームワークを理解する
- Lecture 3 古典派貿易理論(リカードモデル)：モデルの仮定について
- Lecture 4 古典派貿易理論(リカードモデル)：比較優位
- Lecture 5 新古典派貿易理論(ヘクシャー・オリーンモデル)：モデルの構造について
- Lecture 6 新古典派貿易理論(ヘクシャー・オリーン)：4つの定理の導出
- Lecture 7 新しい貿易理論：モデルの構造とその含意
- Lecture 8 新新貿易理論：モデルの構造とその含意

【到達目標】

標準的および最新の貿易モデルの仕組みを理解することができる。

【成績評価の方法・基準】

レポート(60%)および議論への貢献度(40%)で評価します。

【教科書】

特になし

【参考書・参考文献】

- 木村福成著「国際経済学入門」、日本評論社、2000年等の国際貿易理論の中級レベル以上の教科書としてよく用いられている文献(日本語または英語のもの)を参考文献として紹介します。
- また、講義中毎回、参考書や論文を分野ごとに適宜指示します。
- 事前に上記の参考書および以下の参考書に目を通しておいてください。
- Robert Feenstra, "Advanced International Trade: Theory and Evidence", 2nd, Princeton University Press, 2015

【履修上の注意・メッセージ】

ミクロ経済学の知識が必要です。必ず事前に履修または自習しておくこと。使用する論文や資料は英文のものがほとんどですので、英文資料が読めること。経済学の基礎知識がない人は基礎的な経済学(ミクロ経済学、経済数学)をまず履修した後にこの講義を履修してください。

【履修する上で必要な事項】

講義と受講生による報告、および演習を組み合わせで行います。

【履修を推奨する関連科目】

ミクロ経済学、経済数学

【授業時間外学修についての指示】

必ず事前に指定された論文を読み十分に予習すること。特に、数学を多く用います。経済数学の参考書等を用いて事前に十分な予習をすること。

【その他連絡事項】

ミクロ経済学および経済数学の知識が必要です。必ず事前に履修または自習しておくこと。使用する論文や資料は英文のものがほとんどですので、英文資料が読めること。経済学の基礎知識がない人は基礎的な経済学(ミクロ経済学、経済数学)をまず履修するか、または十分に自習した後にこの講義を履修してください。

【授業理解を深める方法】

授業の講義に沿った重要文献を指示しますので受講生はその論文等を事前に読んだうえで解説・議論を行う発表形式も取り入れます。

授業科目名 (英語表記)	交通政策 (Transportation Policy)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	辻本 勝久		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 10月1日(土) 9:00～12:00	第3回 10月22日(土) 9:00～12:00	
	第2回 10月15日(土) 9:00～12:00	第4回 10月29日(土) 9:00～12:00	
<p>【授業の概要・ねらい】 専門誌を用いて、交通政策の最新動向を研究し、報告し、議論します。</p> <p>【授業計画】 第1回 地方都市を支える鉄道 第2回 次世代エネルギー 第3回 ラストワンマイルーモビリティとまちづくりから考えるー 第4回 「運輸と経済」2022年3月号～10月号から1冊</p> <p>【到達目標】 講義内容を踏まえて、都市・地域づくりや国づくりに向けた交通政策面からの提言を行えること。</p> <p>【成績評価の方法・基準】 報告内容50%、発言内容20%、期末レポート30%</p> <p>【教科書】 ○「運輸と経済」2022年2月号 特集：ラストワンマイルーモビリティとまちづくりから考えるー ○「運輸と経済」2022年1月号 特集：次世代エネルギー ○「運輸と経済」2021年9月号 特集：地方都市を支える鉄道 ○「運輸と経済」2022年3月号～10月号から1冊(9月初旬に指定します)</p> <p>【参考書・参考文献】 特になし</p> <p>【履修する上で必要な事項】 この科目は岸和田サテライトで開講します。オンラインでも受講できます。9月に報告担当の指定を行います。受講にあたっては、教科書を必ず入手しておいてください。積極的に発言してください。</p> <p>【履修する上で必要な事項】 日本語で実施します。</p> <p>【履修を推奨する関連科目】 交通統計解析演習、交通計画策定演習、その他URTに関連する科目</p> <p>【授業時間外学修についての指示】 本授業の授業計画に沿って、研究報告に向けた準備と復習を行ってください。研究報告の担当がない回についても、必ず事前に論文を読み、質問を考えた上で参加してください。授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学修を求めます。</p> <p>【その他連絡事項目】 報告担当の際には必ず数ページのレジюмеを作成し、前日までにpdfで提出してください。また、報告担当でない回にも、必ず予習をしてから出席してください。</p> <p>【授業理解を深める方法】 学生による発表</p>			

授業科目名 (英語表記)	通商政策 (Trade Policy)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	藤木 剛康		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間	1日目 10月6日(木) 18:00~21:00	3日目 11月10日(木) 18:00~21:00	
	2日目 10月20日(木) 18:00~21:00	4日目 11月24日(木) 18:00~21:00	

【授業の概要・ねらい】

今日の国際政治の中心舞台とされている「インド太平洋」とはどのような地域であるのか、その成り立ちと現在の情勢、今後の展望について、国際的にも定評のあるテキストを検討します。そのうえで、日本外交の表看板である「自由で開放的なインド太平洋構想」やCPTPPへの中国・台湾加盟申請をどのように考えるべきかなど、日本の外交や通商政策にかかわる重要な論点について、自らの考えを議論できるようになることをめざします。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	(講義の解説)
第2回	日本の「自由で開放的なインド太平洋構想」とは	(FOIPの概説と議論)
第3回	インド太平洋地域の概要	(テキスト該当箇所の輪読)
第4回	インド太平洋地域の経緯	(テキスト該当箇所の輪読)
第5回	インド太平洋地域の現状	(テキスト該当箇所の輪読)
第6回	インド太平洋地域の現状	(テキスト該当箇所の輪読)
第7回	インド太平洋地域の展望	(テキスト該当箇所の輪読)
第8回	まとめ	(最終レポートの作成)

講義の解説

【到達目標】

インド太平洋地域をめぐる日本外交のあり方について、その成り立ちや現状を踏まえて自らの意見を表明できるようになること。

【成績評価の方法・基準】

各回の報告(60%)と最終レポート(40%)で評価します。各回の報告はMoodleにもアップしてください。

【教科書】

- 河音琢郎、河崎信樹、藤木剛康編「現代アメリカ政治経済入門」ミネルヴァ書房
- ローリー・メドカーフ「インド太平洋戦略の地政学」芙蓉書房出版

【参考書・参考文献】

- 竹中治堅編「『強国』中国と対峙する世界」千倉書房
- 「フォーリン・アフェアーズ・レポート」所収の関連する論文

【履修上の注意・メッセージ】

講義の読書課題だけでなく、日常的に新聞やニュースを視聴し、米中関係を中心とした国際情勢に関心を持ってもらいたい。

【履修する上で必要な事項】

特になし。

【授業時間外学修についての指示】

授業計画に沿って、各回の予習と復習を行ってください。

2. 学部授業科目

授業科目名 (英語表記)	ポストコロナ社会の心身と暮らしを考える (Thinking about Mental-Physical Health and Life in the "Post-Covid19 Society")		
単位数	1 (学部生のみ)	授業形態	講義・演習
担当教員	阿部 秀二郎、金川 めぐみ、藤田 和史、小関 彩子、片渕 美穂子、本村 めぐみ		
開講	岸和田サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	第1回 10月8日(土) 13:00~17:00	第4回	11月5日(土) 13:00~17:00
	第2回 10月15日(土) 13:00~17:00	第5回	11月12日(土) 13:00~17:00
	第3回 10月22日(土) 13:00~17:00	第6回	11月26日(土) 13:00~17:00
<p>【授業の概要・ねらい】</p> <p>私たちはこの2年、100年に1度と言われる新興感染症のパンデミックを経験しました。先のパンデミックとして有名なのは100年前に大流行した新型インフルエンザ(スペイン風邪)でした。そのパンデミックを経験して、私たち人類の生き方、考え方、心身の御し方、そして社会経済のあり方と、多様な側面が変化してきたことは言うまでもありません。この授業では、パンデミック後の世界において、私たちの心身や暮らしがどのように変化したか、その中で私たち自身の有り様をどのようにしていくのかを、3つの視点から検証していくことを目的とします。</p> <p>1つ目は、新型コロナウイルスのパンデミックが私たちに及ぼした影響を、社会経済状況の変化や人々の思想の変化をヒントに、その様子を確認していくことです。新型コロナウイルスの長い時間は、良くも悪くも私たちの社会制度や思想に影響を及ぼしました。これらの影響内容を私たちが適切に把握することにより、ポストコロナ社会がどのようになるのか、それに向き合う姿勢をあらためて確認できることになるでしょう。</p> <p>2つ目は、新型コロナウイルスのパンデミックが、私たちの心身に具体的にどのような影響を与えたかです。心の健康や身体の健康からみたコロナ禍の状況を冷静に確認することにより、私たちは心身ともに新型コロナウイルス感染症だけでなく、今後出現する新興感染症とどのように向き合うのかという問いについて考えることができます。</p> <p>3つ目は、新型コロナウイルスのパンデミックは、私たちを取り巻く関係性、より具体的に言えば家族関係やセーフティネットに影響を与えました。ポストコロナ社会において、どのような家族関係やセーフティネットを指向していくのか、それについて改めて確認していきたいと思えます。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1回 ポストコロナ社会における哲学 小関 彩子 (教育学部准教授)</p> <p>第2回 「こころとからだを調えるポディワークーポストコロナ社会における健康のためにー」 片渕 美穂子 (教育学部准教授) *実技を伴います。</p> <p>第3回 ポストコロナ社会における福祉から社会的包摂を考える 金川 めぐみ (経済学部教授)</p> <p>第4回 ポストコロナ社会における家族関係 本村 めぐみ (教育学部准教授)</p> <p>第5回 精神疾患という視点からこころの健康を考える 岩谷 潤 (東京医科大学医学部兼任助教) ゲストスピーカー 角谷 久美子 (地域活動支援センター櫻 ピアサポーター) 中野 千世 (地域活動支援センター櫻 管理者・相談支援専門員)</p> <p>第6回 事情の変化がもたらす心身と暮らしへの影響の可能性 阿部 秀二郎 (経済学部教授)</p> <p>【到達目標】</p> <p>コロナ禍における「社会制度・思想」、「心の健康・身体の健康」、「家族・福祉」に関する知識を得て、自分の考えを述べ、ポストコロナの時代における自身の御し方・あり方について自分なりに説明することができる。</p> <p>【成績評価の方法・基準(学部生のみ)】</p> <p>レポート80% 各担当者がレポートの課題・テーマを設定し、授業時間中に説明します。授業への積極的な参加度合い20%。</p> <p>【教科書】</p> <p>特にありません。授業の中で、資料を配布します。</p> <p>【参考書・参考文献】</p> <p>授業の中で適宜紹介します。</p> <p>【履修上の注意・メッセージ】</p> <p>授業中、ディスカッションの時間を多くとりたいと思います。参考書などを利用して予習をし、積極的に参加してください。</p> <p>【履修する上で必要な事項】</p> <p>特になし。</p> <p>【授業時間外学修についての指示】</p> <p>授業後、内容の復習をしっかりと行ってください。予習課題を必要とする場合には、担当講師から事前に連絡します。</p> <p>【授業理解を深める方法】</p> <p>この授業は本学のアクティブラーニング実施要項の下記に相当します。 学生による発表をともなう学習、複数の領域にまたがる解法を必要とする学習、グループワークをともなう学習</p>			

授業科目名 (英語表記)	災害の文化と地域の祭礼 (Disaster Subculture and local festival)		
単位数	1 (学部生のみ)	授業形態	講義・演習
担当教員	平田 隆行、宮定 章、山神 達也、吉村 旭輝		
開 講	岸和田サテライト	区 分	学部開放科目
実施日・時間	第1回 1月7日(土) 13:00~17:00	第4回 1月28日(土) 13:00~17:00	
	第2回 1月14日(土) 13:00~17:00	第5回 2月4日(土) 13:00~17:00	
	第3回 1月21日(土) 13:00~17:00	第6回 2月11日(土) 13:00~17:00	

【授業の概要・ねらい】

阪神・淡路大震災で被災した灘区、東灘区の復興では、翌年5月に行われた「だんじり」が大きな役割を果たした。中越地震で大きな被害を受け、全村避難状態にあった山古志村では「牛の角突き」が執り行われた。東日本大震災の原発事故において避難指示を受けていた南相馬は、「相馬野馬追」が有名だが、この祭礼も多くの馬が流されたなかで執り行われた。陸前高田をはじめ、街の復興のシンボルとして祭りの復活を掲げ、そこに向かって復興に邁進する地域は数多く見られる。大災害で大きな痛手を負ったにも関わらず、祭礼という一見「無駄に見えるもの」に向かうのはどういうことなのだろうか。災害の記録を残し、地域住民に継承させる地域や、神社や地蔵の位置そのものが災害履歴を示す地域もある。泉州地域は、「だんじり」や「ふとん太鼓」の祭礼が盛んな地域である。2018年の台風21号災害の直後、祭り組織の強力な結束力によって、路上の片付けを行った地区もあったと聞く。

ここでは、災害と文化、あるいは祭礼との関係にスポットを当て、各地の災害とそれを乗り越える生活文化を考えていく。

【授業計画】

第1回 災害文化と定住の祭祀	平田 隆行 (システム工学部准教授)
第2回 災害と文化	宮定 章 (災害科学・レジリエンス共創センター特任准教授) ゲストスピーカー 林 勲男 (国立民族学博物館 名誉教授)
第3回 霊性の震災学	平田 隆行、宮定 章 ゲストスピーカー 金菱 清 (関西学院大学 社会学部教授)
第4回 地形地質と災害の文化	平田 隆行 ゲストスピーカー 後 誠介 (和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター客員教授)
第5回 古座川の暮らしと災害	山神 達也 (教育学部准教授)、吉村 旭輝 (紀州社会経済研究所准教授) 平田 隆行、宮定 章
第6回 泉州の祭りと災害	吉村 旭輝 まとめのワークショップ 平田 隆行、宮定 章

【到達目標】

災害文化とは何かを説明することができる。祭礼の持つ意味と力を学び、人に説明することができる。

心の面から、災害を乗り越えるための知恵を習得し、その意義を説明できる。

「不要不急なもの」とは何かについて、より深みのある議論ができる。

【成績評価の方法・基準(学部生のみ)】

各回に設けるディスカッションおよび、レスポンスカードをもとにします。

授業への積極参加(オーラルなディスカッション)70%、文章形式でのレスポンス30%とします。

【教科書】

特にありません。

【参考書・参考文献】

- 災害文化の継承と創造：林 勲男，橋本裕之編 ○震災学入門：死生観からの社会構想（ちくま新書）金菱清
- なぜ大災害の非常事態下で祭礼は遂行されるのか：植田今日子
- 震災と芸能ー地域再生の原動力：橋本裕之，追手門学院大学出版会

【履修上の注意・メッセージ】

通常の授業連絡や参考文献の参照にPCは必ずしも必要ではありません。タブレットやスマートフォンで対応可能です。

【履修する上で必要な事項】

特になし。

【授業時間外学修についての指示】

だんじりやふとん太鼓など、お住まいの地域の祭礼について、調べておいてください。また、国内で自然災害が発生した際には、報道・行政の発表、専門家の発言など、各自で情報を集めておいてください。

【授業理解を深める方法】

数多く出版されている図書、学会・自治体が行うオンラインセミナー、NHKスペシャルやクロ現など、災害にかんする調査報道番組、ドキュメンタリーをご覧になることをお勧めします。また、防災士講座も受けられると良いかと思います。なお、担当者(平田)は、災害関連のテレビ放送を数百本単位で録画しています。

〈新型コロナウイルスへの対応について〉

新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、本募集要項に記載の日程・内容等が変更される可能性があります。

詳しくは、和歌山大学岸和田サテライトホームページで確認してください。

<http://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/kishiwada/>

〈気象警報発表時・交通機関運休時等の授業取扱について〉

岸和田市に「暴風警報」または「大雨警報」、「大雪警報」が発表若しくは「南海本線」「JR阪和線」の両線が運休等した場合は、その期間中の授業は休止となります。

詳しくは、和歌山大学岸和田サテライトホームページで確認してください。

<http://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/kishiwada/>

〈個人情報の取り扱いについて〉

本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人和歌山大学における個人情報の保護に関する規程」等に基づき、厳密に取り扱います。